

FIU : Florida International University
LACC : Latin American and Caribbean Center

石井 章

(在サンホセ海外調査員)

ローゼンバーグ所長(左)とキンケイド副所長



マイアミは地理的位置からして中米・カリブ地域との結びつきが強い。とくに1960年代以降亡命キューバ人をはじめとしてこの地域からの人口流入が多く、いまやラテンアメリカ系住民の人口がアングロサクソン系白人、黒人の人口を上回っている。スペイン語が街にあふれ、ここはラテンアメリカの一部かとさえ思われるくらいである。また近年ここは反カストロ派のキューバ人、反サンディニスタ派のニカラグア人の活動拠点として知られている。

このような土地に設立されたフロリダ国際大学(Florida International University, FIUと略称)では、当然のことながらラテンアメリカ・カリブ地域研究に力を入れている。

FIUはフロリダ州に9校ある州立大学の一つとして1972年に創立された新しい大学である。キャンパスはUniversity ParkとNorth Miamiの2カ所に分かれる。ラテンアメリカ・カリブ・センター(Latin American and Caribbean Center, LACCと略称)はマイアミ市の西の郊外にあるUniversity Parkキャンパスの本部建物の2階の一角を占める。

LACCの設立は1979年。「言語・地域研究のためのNational Resource Center」の一つとして連邦政府から認定され、ティンカー、フォード、ロックフェラー、カーネギー各財団、および連邦情報局(USIA)、連邦国際開発局(USAID)からの助成金を得ている。

LACCの役割は、まず第1にこの地域に関する研究プロジェクトを開発、推進することである。研究プロジェクトは中米に重点がおかれており、「中米調査

計画」(Central American Research Program)の統括のもとに、「中米の経済危機に関する調査計画」、「中米調査・訓練計画」(FIUと中米の大学の教官との間の交換、交流)、「ホンジュラス国立大学との連携計画」(FIUとホンジュラス国立大学の教官との交換、交流)がある。

第2の役割は教育であり、学部学生のための「ラテンアメリカ・カリブ研究」、大学院段階の、この地域に関する経済、国際関係、国際ビジネスのコースがある。

第3に、この地域に関する会議やワークショップを主催、後援することである。なかでも重要なのが連邦議会議員を毎年マイアミに招いて、3日間米州関係の重要問題について討議を行なう「西半球の政治、経済、安全保障問題に関するマイアミ・議員ワークショップ」、全米各地およびラテンアメリカ・カリブからジャーナリスト、編集者が集まる「ジャーナリスト、編集者ワークショップ」である。この他にマイアミを訪問する米國、ラテンアメリカ・カリブの著名な学者や政府要人を呼んで随時講演会、公開セミナーを開催する。

LACCの専任スタッフはローゼンバーグ(Mark Rosenberg)所長、キンケイド(Douglas Kincaid)副所長を含めて教官4人、事務員4人であるが、その他にFIUの各学部に所属する約80名の教官および図書館司書が「提携教職員」(associated faculty)としてLACCの活動を支えている。

出版物には、年3回発行の雑誌*Hemisphere*、同じく年3回のニュース・レター*LACC News*、*LACC Studies on Latin American and the Caribbean*(モノグラフ・シリーズ)、*Occasional Paper Series*、それにワーキング・ペーパー、議事録、討論の記録等を集めた*Occasional Paper Series Dialogue*がある。連絡先は、

Latin American and Caribbean Center
Florida International University
University Park, Miami, Florida 33199 USA
tel.(305)554-2894